

人は楽しむために生まれてきた

日本国民への提言 ⑤

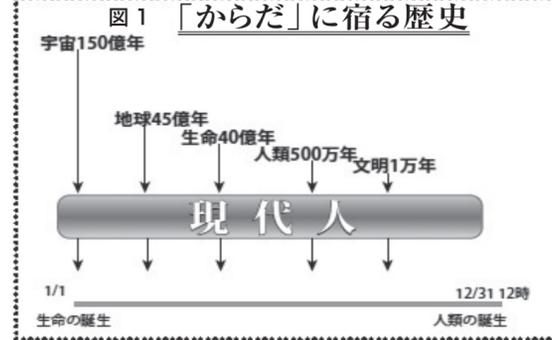


たまご理論
院長 石垣 邦彦

〒581-0061
大阪府八尾市春日町1-4-4
電話072(991)3398
FAX072(991)4498
ホームページアドレス
http://www.tamagobl.com/

たまご理論で病気のしくみを考える

日本の国民一人ひとりが、自らの「からだ」の「しくみ」を生かすことで、日本を再生する



「II」からだの「しくみ」とは、お釈迦さん(2600年前)と現在のわたしたちとは「からだ」の「しくみ」は変わらないこと。しかし、人類が創意工夫した文明には著しい変化があること。しかもその変化には利便性と危険性を同時に含むこと。具体的に、第一次大戦以来、幾多の戦争がありました。わたしたち人類が創意工夫したダイナマイト・原子力・飛行機・政治社会体制などがなければ、もって被害を少なくできなかった。文明そのものが矛盾であること。

「III」からだの「しくみ」の基本は「入り・出」。わたしたちの祖先である原始細胞が40億年たつたころにわかれ、進化して60兆の細胞を有するわたしたち人類の「からだ」に共通するところがあること。それは、原始細胞であっても60兆の細胞を有する人類の「からだ」であっても、それ自身だけで生きていけないこと。

大阪万博に基本理念を提案する

「I」人間の創意工夫の産物である文明は、変化する。人間の「からだ」の「しくみ」は、変化する。人間の創意工夫による科学技術をはじめとする文明は、進歩をみせていること。しかし、人間の「からだ」の「しくみ」は、変わっていないこと。その本質的な違いを認識したうえで、大阪・関西万博の「いのち輝く未来社会のデザイン」に対する基本的な考え方を提案したい。大事な視点なので、ぜひ読んでほしい。

「IV」からだの「しくみ」がスムーズにはたらく「状態」が生きている上で大事な「こと」。この「入り・出」の「はたらき」については、原始細胞も60兆の細胞を有する「からだ」にもなる本質的な差異はなく、むしろパンジーと牛・猿・猫・犬・魚・鳥なども同じ「しくみ」であること。そして植物とも原則的に同じ「しくみ」があること。

「区」人生の船長である高齢者よ、立ち上げろ。人生経験を経た高齢者であるから、それだけではないことがある。それは「いのち」の「しくみ」の役割であること。船が難破して沈みかけている時に最後に降りるのは乗客の「いのち」を「役割」をもち船長であること。



写真1 広島 原爆による廃墟

「V」「入り・出」をより安全に効率よくすることが進化。生きるには、原始細胞にとっても60兆の細胞を有する人類の「からだ」にとっても「入り・出」が基本。この「入り・出」がスムーズにはたらくように原始細胞の「からだ」の「しくみ」も60兆の細胞を有する人類の「からだ」の「しくみ」も目的をもって活動してきた。つまり、進化とは、地球環境の変化に応じて

表1 人は楽しむために生まれてきた!
～人間の生死は「上部部の柔軟度」が指標となる～

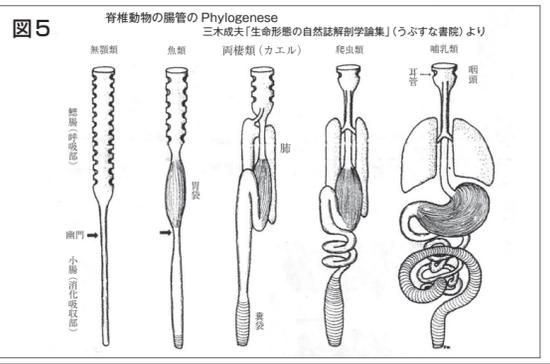
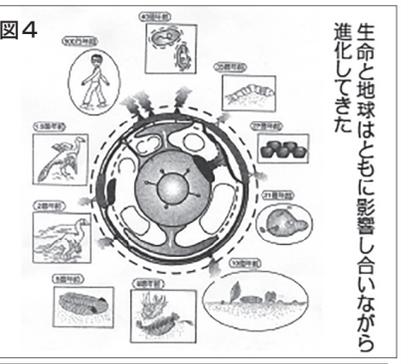
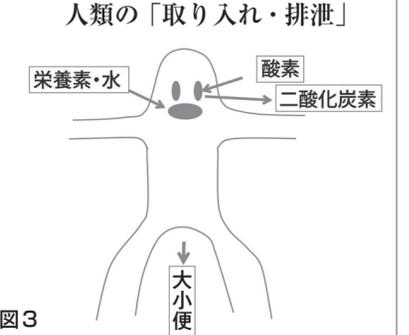
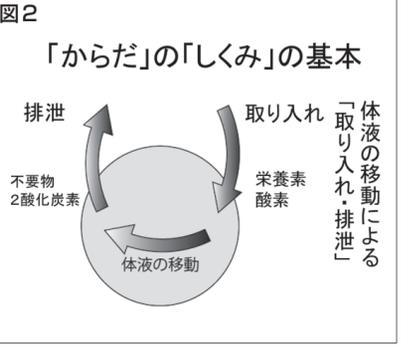
ROB 治療で「上部部の柔軟度」がやわらかくなると…
「入り出」がととのい、深く長くこちよい呼吸ができる

- 呼吸が深くない
- 循環が良くない
- 人体力学が安定し
- 自律神経がととのい
- 内臓全般の動きが活発になる

- 生きる力がつく ⇒ 生き方が身につく
- 総合的免疫力がつく ⇒ 予防ができる
- 自然の治癒力がつく ⇒ 治療が的確に
- 自然なバランス力がつく ⇒ 自然なケア
- 自然な死への流れができる ⇒ 穏やかな死

■人間の「からだ」の自然な「しくみ」が生かされ
ROB 医療で人生が統合される!!

「VI」入り・出」がスムーズになると、「呼吸・循環・自律神経・人体力学・内臓全般の動き」がととのう。人類にも「生きもの」の特徴として「生まれながらにして」の「入り・出」がスムーズになること。そのために「入り・出」がスムーズになること。そのために「入り・出」がスムーズになること。そのために「入り・出」がスムーズになること。



「区」人生の船長である高齢者よ、立ち上げろ。人生経験を経た高齢者であるから、それだけではないことがある。それは「いのち」の「しくみ」の役割であること。船が難破して沈みかけている時に最後に降りるのは乗客の「いのち」を「役割」をもち船長であること。